

響



ひびき

東信教育事務所
〒384-0006
小諸市与良町6-5-5
TEL.0267-31-0251
FAX.0267-31-0140



令和2年11月6日
No.6



いつだって尊かったのは、何気ない日常の中にあった、たまゆらのこと。

響 第6号「たまゆらのこと」 -もくじ-

- | | |
|---|-----|
| 1. 1時間で心と体がぽかぽか
友だちと一緒に楽しく体ほぐしの運動を! | P 2 |
| 2. 何に注目して、どう考えるのか
~社会科の「見方・考え方」を働かせる授業づくり~ | P 3 |
| 3. 「明日の一步につながる」
第2回研究主任会 | P 4 |
| 4. 新指導要領の考え方を理解し、
認識の共有を図るために | P 5 |
| 5. 人権教育の考え方 | P 6 |
| 6. 誰もが楽しむことのできる
ニュースポーツ体験 | P 8 |

授業で話し合ったり、体育で手を取り合ったり、英語であいさつをし合ったり、休み時間に昨日のテレビの話をしたり…。子どもたちにとって、関わり合いの中にあるそんなたまゆらのふれあいは、地面に水が浸み込んでいくようなじんわりとした時間だったのだと思います。

互いの距離に気を遣い合う時だからこそ、先生方も、語り合い、ふれあいのある何気ない時間を、一層、大切に思われているのではないのでしょうか。





1時間で心と体がぼっかぽか ～友だちと一緒に楽しく体ほぐしの運動を！～

体ほぐしの運動（遊び）は技能の習得を目的としていません。では、どんなねらいで授業を進めたらよいのでしょうか？今回は教師の声かけを中心にT小学校5年生N先生の実践を紹介します。

①自分の心の状態を確認しよう

準備運動を行った後に、N先生は子どもたちに今の心の状態（悲しい・怒っている・いつも通り・楽しい）を学習カードに○をするように促します。多くの子どもが「いつも通り」に○をしました。

②みんなでやってみよう (みんなでウォーキング・忍者跳び・かかとタッチ)

最初に一人でやる運動を行いました。N先生は子どもたちと一緒に動きながら「どんな気持ち？」「今、体はどうなっている？」と問いかけながらテンポよく3つの運動を進めました。子どもたちはこの段階で汗だくになりました。

③ペアでやってみよう (ミラーストレッチ・棒ストレッチ・目隠し電車)

次に子どもたちはペアでストレッチを考え、みんなに紹介しました。N先生は、子どもたちのつぶやきから「どこを伸ばすと体が柔らかくなるか」を聞き、目隠し電車では「目隠しをするとどんな気持ち？」等、自分の心や体の状態に気づいたり、ペアの体の状態について関心が向いたりするような声かけをしました。

④グループでやってみよう (棒バランス)

グループになって、立てた棒状の新聞紙を倒さず移動する棒バランスを行いました。なかなかうまくいかない子どもたちの様子を見て、N先生は作戦タイムの時間を設けました。D児のグループは4人の距離を縮めて素早く動くことを確認して再チャレンジ。見事、みんなで呼吸を揃え、かけ声を合わせて一気に体を動かし移動しました。

⑤自分の心の状態を再確認しよう

振り返りでN先生は再度、子どもたちに今の心の状態を聞きました。多くの子どもたちが「いつも通り」から「楽しい」に変化したことから、なぜ楽しくなったのかを話し合いました。「ワクワク」「もっとやりたい」「協力」「みんなで成功した」「いっぱい汗をかいた」…子どもたちからたくさん出された楽しさの理由から、最後に「体を動かして汗をたくさんかくと気持ちよくなる」とまとめました。



体ほぐしの運動（遊び）のねらいは「自分の心と体の関係に気付くこと」と「仲間と交流すること」です。本時のN先生のように誰もが仲間と楽しめる運動を紹介し、1時間の授業の中で心と体の関係や、交流するよさに気付かせる声かけをたくさんすることで、子どもたちはねらいに迫っていくのですね。



授業から学ぶ 小学校・社会科



何に着目して、どう考えるのか ～社会科の「見方・考え方」を働かせる授業づくり～

知識の質を高める鍵、深い学びの鍵が「見方・考え方」（その教科の本質）と言われています。社会科においては「社会的な見方・考え方」として、小学校では「社会的事象の見方・考え方」、中学校では、地理・歴史・公民のそれぞれの見方・考え方があります。ここでは、小学校5年生「日本の食糧生産」の実践から「社会的事象の見方・考え方」について考えたいと思います。

社会的事象の見方・考え方（例）

課題を追究したり解決したりする活動の中で、この「見方・考え方」を働かせることにより、思考力、判断力の育成や、様々な場面で活用できる知識の習得などに作用します。

着目する視点（見方）	<u>位置や空間的な広がり</u> 、 <u>時期や時間の経過</u> 、 <u>事象や人々の相互関係</u> など
方法（考え方）	<u>比較・分類したり総合したり</u> 、 <u>地域の人々や国民の生活と関連付けたり</u> すること

（参考資料：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編）

「見方・考え方を働かせる」とは、「視点」「方法」を用いて課題を追究したり、解決したりする学び方のことなんだね。



見方・考え方を働かせ、ねらいを達成した子どもの姿

○小学校5年生「日本の食糧生産」

日本の果物事情として安い輸入果物が店頭に並ぶようになったことを知った子どもたちは、手間をかけ、見た目にもこだわった「高級路線」で勝負している地元のりんご農家Aさん、極力手間を省いて栽培している地元のりんご農家Bさんと出会い、学習課題を設定しました。

学習課題「Aさんは手間をかけているのに、どうしてBさんは袋掛けも、玉回しもしないのだろう。」

ねらいを達成した子どもの記述（授業①）

ねらいの達成に届いていない子どもの記述（授業②）

Aさんと同じように、Bさんも味にはこだわっていた。Bさんは観光農園で、お客さんにも、作る人にもよいりんご作りをしている。Bさんのりんご作りは高齢になってもできる「続けられる農業」でした。

Bさんの作っているりんごは、りんご狩り用のりんごで、Aさんの作っているりんごは贈答用なので、丁寧に作られている。

りんごの作り手やお客さんといった人々の相互関係に着目しながら、お客さんや複数の作り手の立場からりんご栽培を比較し、事象を多角的に考えています。

AさんとBさんのりんごがどのような目的で作られているのかについては書いていますが、事実の羅列にとどまっています。

見方・考え方を働かせるために

「見方・考え方」を働かせる「問い」と学習課題を設定しましょう。

設定された学習課題は、AさんとBさんとの相互の關係に着目した学習課題となっています。授業①の子どもの記述は、学習課題を「Aさんの栽培と比較しながら予想を立てよう」とし、その予想を「作業を楽にするためにあえてやらない」「やりたいけれど、理由がありできない」「やらなくても同じ効果を得られる工夫がある」の3つに分類して考えた授業の記述です。授業②は、学習課題を「何のために作っているのか調べよう」とした授業の記述です。

「見方・考え方」を働かせる「問い」は、他にも「どのように分布しているか（位置や空間的な広がり）」、「いつ、どこで始まったのか（時期や推移）」、「どのようなつながりがあるか（人間相互の關係）」などがあります。小学校・中学校ともに、単元や毎時間の学習課題、学習課題を社会科の「見方・考え方」から考えることで、社会的事象を多面的・多角的に思考していく姿につながりそうですね。





「明日への一步につながる」

第2回研究主任研修会

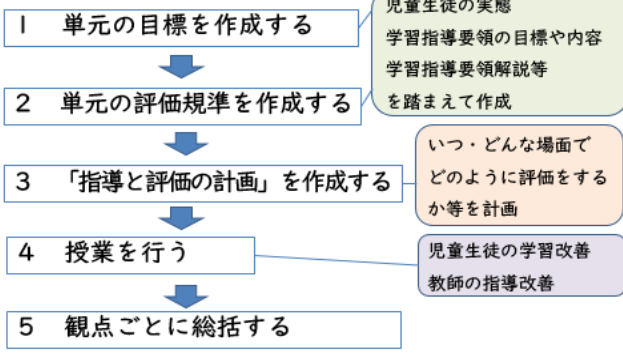
8月28日、各地区教育会館をお借りして、地区ごとに分かれ実施した研究主任研修会。事前に3つのテーマをお示しし、参加される先生方に興味・関心のあるテーマを選択していただいたの研修会となりました。

テーマ1 「新学習指導要領における評価について」

「3つの資質・能力の具体を知る」ことと「評価の進め方について理解する」ことをねらいとして研修が進められました。

評価について、とてもあいまいな認識だったので少しスッキリしました。特に、主体的に学習に取り組む態度については、誤解していた部分もあるのでよい機会となりました。校内にも広げたいと思います。(参加者)

評価の進め方



テーマ2 「全国学力・学習状況調査問題の活用例について」

学調の扱い方についての情報が得られてよかったです。調査学年の6年生だけでなく、多学年の先生方にも広めたいと感じました。(参加者)

すでに実施して、児童生徒の解答状況を把握して補充・補充指導、また授業改善につなげている学校もあります。

配布された調査問題をどうするか

- ◆テスト形式で実施
 - ①全て ②教科を絞って ③問題を抽出して → 定期テスト, 単元テスト, 調査学年以外
 - 実施場面 ①授業中 ②短学活等 ③家庭学習
 - 採点 ①教師 ②自己採点



- ◆校内研修で ①学年, 教科会で ②全職員で ③ゾーン訪問を活用して

テーマ3 「校内の研究推進について」 (初めての研究主任の先生向け)

「授業改善に向けた取組み」「全職員との関係づくり」「向学の気風を高める情報発信」という研究主任としての役割について、「研究主任サポートブック」をもとに研修を進めました。

主任としてやらねば…と、力みすぎてしまっているように思いました。全職員との関係づくりや情報発信ができるように、私なりにできることを積み重ねていきたいと思います。(参加者)

「授業改善に向けた取組」について

大きく6つのポイントがあります。

- ①児童生徒の実態をもとに、校長先生や教頭先生にも指導いただき、学力向上に向けた重点目標を決める。
- ②重点目標をもとに、各教科における授業改善のポイントを明確化する。
- ③授業において大切にしたい教師の姿勢や育てたい子どもの姿などの共通理解を図る。
- ④互いの授業を参観し合って学び合う体制をつくり出す。
- ⑤公開研究(教育課程研究協議会等)を行う教科・領域への支援を行う。
- ⑥家庭学習の在り方について、児童生徒に力の付く方法を提案する。

各テーマ、目的意識をもって学ぶ研究主任の先生方の姿がありました。その学びを自校の先生方と共有できるといいですね。なお、本研修会で共有した情報は、研究主任向け号外(11月上旬発行)にて詳細が掲載されていますので、併せてご覧ください。





新指導要領の考え方を理解し、
認識の共有を図るために

研究主任会においても話題になりました。

各教科での育てたい資質・能力とは？
評価の考え方は？
コロナ禍での授業の工夫例は？

各教科についてできるだけ具体を知りたいという先生方の悩みに応えたい。校内の全職員で共有を図り、共通認識のもとで進んでいきたい。という研究主任としての使命感を感じました。

長野県学習支援ポータルサイト

まなびすけ信州

令和2年度教育課程研究協議会の中止に伴う説明資料

お役立てください！

教職員
向け



各教科共通内容
「主体的・対話的で深い学びの実現にむけて」
「学習評価のポイント」



本年度は、参集しての教育課程研究協議会は中止となり、長野県教育委員会からの説明資料動画がポータルサイト「まなびすけ信州（教職員向け）」にアップされています。従来の教育課程研究協議会とは異なり、すべての教科等についていつでも何度でも閲覧することができます。

本資料動画は、各教科共通の章立てになっています。特に評価については、各教科ごとに「内容のまとめりごとの評価規準」「指導と評価の計画」等の具体的な例について掲載してあります。各教科会や学年会などで、評価基準作りに役立てたり、指導計画を見直したりすることに活用できるものになっています。

※動画の閲覧には学校ごとにあるIDとパスワードの入力をしてログインしてください。
また、本動画資料は年度末まで掲載の予定です。

人権教育 の 考え方

人権教育は、地域、学校、家庭などあらゆる場における教育活動です。多くの学校が、この秋ごろに人権教育の強化期間を設けています。人権教育の考え方や学習活動の在り方についても、職員同士で考え合う機会があるかと思えます。ぜひご参考にしてください。

人権教育とは人権尊重の精神の 涵養を目的とする教育活動です。

「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」より

学校における人権教育の目標

一人一人の児童生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、**「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」**ができるようになり、それが具体的な態度や行動に現れるとともに、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるようにしていくことです。



人権教育を通じて育てたい資質・能力

自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動

自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする
意識・意欲・態度

人権に関する
知的理解

人権感覚

知識的側面

価値的・態度的側面

技能的側面

全ての関係者の人権が尊重されている教育の場としての学校・学級
(人権教育の成立基盤としての教育・学習環境)

人権教育の目的を達成するためには、人権や人権擁護に関する**知的理解**と、人権がもつ大切さを直感的に共感的に受けとめられる**人権感覚**を育成することが必要です。

これら知的理解と人権感覚とが結びつくことで、人権侵害を解決したり問題状況を変えようとする**人権意識・意欲・態度**となり、**自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動**につながると考えられています。

学校における人権教育の指導内容と指導方法

人権教育で育成する知識理解と人権感覚を、**知識的側面、価値的・態度的側面及び技能的側面**の3つの側面として、日々の学習活動等に位置付けて指導をしていきます。

一方、各教科等やその分野・領域にはそれぞれの目標やねらいがあり、指導に当たっては、その**教科等の目標やねらいを達成することが第一に求められます。**

知的理解に関わる
指導内容

知識的側面

例えば、自由、責任、正義、個人の尊厳、権利、義務などの諸概念についての知識、人権の歴史や現状についての知識、各種法規に関する知識、自他の人権を擁護し人権侵害を予防したり解決したりするために必要な実践的知識など。

人権感覚に関わる
指導内容

価値的・態度的側面

人間の尊厳の尊重、自他の人権の尊重、多様性に対する肯定的評価、責任感、正義や自由の実現のために活動しようとする意欲など。

技能的側面

コミュニケーション能力、合理的・分析的に思考する技能や偏見や差別を見極める技能、その他相違を認めて受容できるための諸技能、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能、責任を負う技能など。

学習活動における位置づけ

授業等の学習活動においては、学校の人権教育で養いたい資質・能力との関連を考え、単元としては「人権教育とのかかわり」、1時間単位では「人権教育の視点」として、その教科のねらいや学習内容とは別に知識的側面、価値的・態度的側面及び技能的側面の3つの側面から位置付け、意図をもって臨みます。

「人権教育とのかかわり」「人権教育の視点」の例

※学校の人権教育の目標に沿って、この授業でどの側面からどんな力を養えるのかを考える



各教科で

- ◆ 障がいがある人の活躍する場になっていることを理解する (知識)
- ◆ 自分の考えや気持ちを伝え、友達の考えを尊重して聞ける (技能)



行事等で

- ◆ 差別をなくそうと努力してきた人たちがいたことを知る (知識)
- ◆ 差別に立ち向かっていた人々の勇氣に共感する (価値・態度)



総合や特活等で

- ◆ 多様な考えを受け入れ、よりよい方法を考えていこうとする (価値・態度)
- ◆ 複数の情報から公平で均衡のとれた結論を出すことができる (技能)

人権についての知識や価値・態度、そして技能は、単に一方的に教え込んだり、個々に学習させたりするだけでは十分ではなく、各教科および行事等において、児童生徒の「協力」「参加」「体験」を中核とした学習形態の中で身につけていくような工夫をすると共に、話し合ったり反省したり一般化したりなど段階を経て、自己の行動や態度への適用へと進んでいくものになるよう、学習サイクルの中に位置付くものにしていきましょう。

学校における人権教育の取組の視点

基盤として、学級をはじめ学校生活全体の中で自分や他の人の大切さが認められていることを児童生徒自身が実感できるような状況を生み出したり、環境をつくったりすることが大切です。

例えば、右のような力や技能などを総合的にバランスよく培い、「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」とを一体とした取り組みが望まれます。

- ① 他の人の立場に立ってその人に必要なことやその人の考えや気持ちなどがわかるような想像力、共感的に理解する力
- ② 考えや気持ちを適切かつ豊かに表現し、また、的確に理解することができるような、伝え合い、わかり合うためのコミュニケーションの能力やそのための技能
- ③ 自分の要求を一方的に主張するのではなく、建設的な手法により他の人との人間関係を調整する能力や、自他の要求を共に満たせる解決方法を見出してそれを実現させる能力及び技能

教職員として身に付けたい資質・能力

教職員の言動は、日々の教育活動の中で児童生徒の心身の発達や人間形成に重要な意味をもっています。個々の児童生徒の大切さを強く自覚し、児童生徒へ一人の人間として接するという教職員の姿勢そのものが指導の重要な要素になります。



現在、コロナ禍において多くの方々が不安を抱えています。そんな中、自分の中の正義に駆られて、相手の立場を思いやることができなくなるといった風潮も見られます。今まさに、人権教育が必要とされています。「他の人を大切に思う」のみならず、「相手の人権を侵害してはいけない」「誰もが安心して生活できる」という点についても、大切に扱ってほしいと願っています。



「誰もが楽しむことのできるニュースポーツ体験」



～御代田北小学校「ニュースポーツ」講座より～

例年行っている「ふるさとタイム」。今年はコロナ禍にあり、地域の方々を指導者としてお招きできないため、先生方の得意分野にて講座を開設しました。その中で4・5年生11名の児童が参加した「ニュースポーツ」講座の様子をご紹介します。

ニュースポーツ講座を担当した山崎教頭先生の願い

チームで対戦することもあります。勝敗に一喜一憂するだけでなく学年の枠を越えた児童たちが仲間と力を合わせながらそれぞれのニュースポーツの特性を味わい笑顔で楽しんで欲しい！！

☆ ごみごみボール ☆ 「チャレンジする心に火をつける課題設定！」

新聞紙などを丸めてビニール袋へ詰め込んで作ったボール。持ちやすい、当たっても痛くない。落としても転がらないなどの特徴があります。

児童のつぶやき

けっこうとれない（笑顔）



スポーツが得意である活発な児童のつぶやきです。背面キャッチや一回転キャッチは、成功しなくてもチャレンジする楽しさを十分に味わうことのできるメニューとなっています。もう少しでできそうだという課題設定が、主体的にチャレンジする姿を生み出します。

メニュー（活動）

- ・個人
直上キャッチ・直上背面キャッチ・直上一回転キャッチ
- ・二人一組 キャッチボール・背面キャッチ
- ・全員輪になって 円陣直上移動キャッチ

☆ ニチレクボール ☆ 「集中して取り組める環境づくり！」

サークルの中に立って黄色い標的球に向かい、2チームがそれぞれ赤と青のボールをより近づけることで得点を競うゲームです。

児童の感想

ふだんのスポーツはあまり得意ではありませんが、今回のスポーツはとても楽しかったです。特にニチレクボールはよくねらったりしながら黄色の玉に近づけていくのが楽しかったです。（5年生）



ニュースポーツの種類やプレイヤーの年齢層などに合わせ、適度な競技スペースを設定をすることで、集中して楽しむことができます。

ニチレクボールでは、縦5m横3mのスペース内でプレイすることがお勧めです！近くでプレイの様子を観察することができプレイヤー以外の仲間も自然とゲームに集中できます。目標物が近いことで、ボールのコントロールがしやすくなり、ゲーム展開も白熱したものになります。

メニュー（活動）

- ・体育館のラインを利用した投球練習
- ・目標物（黄色ボール）へ近づける投球練習
- ・3チームによるグループ戦

☆ ラダーゲッター ☆ 「大逆転勝利！偶然性を楽しむニュースポーツ」

専用ボールを投球して、ラダー（3段のはしご）へ引っかけて得点を競うゲーム。上のラダーは3点、真ん中は2点、下は1点。5m程離れた所から下投げて投球します。

児童の感想

今までやったことがない遊びがあってすごい楽しかったです。特に印象に残ったのはラダーゲッターです。グループ戦では4人中3人が、3点に引っかけて、逆転で勝ってうれしかったです。またやりたいです。（4年生）

感想より、グループ戦にて大逆転勝利を収めた興奮が伝わってきます。ワンバウンドしてラダーに引っかかるといふ偶然性もあり、やってみなければ結果が分からないという所にもニュースポーツの魅力があります。

メニュー（活動）

- ・投球練習（ラダーに向けて・距離は5m）
- ・グループ戦（一人一投した合計点で競う）

☆ ネットネットゲーム ☆ 「用具やルールの工夫で誰もが楽しめる！」

1m四方のネットの隅を4人で持ち、跳んでくるボールを息を合わせてキャッチし、キャッチしたボールを相手コートへ向けて送り出します。（バドミントンコート使用）

児童の感想

ぼくたちのチームは2試合とも負けてしまいました。でも練習をふくめて楽しむことができました。ゲームの時の半分のネットを二人一組でもってパスする練習をすると少しずつ息を合わせてできるようになって楽しかったです。

（4年生）

主運動に難しさを感じる場合、用具やルールの工夫をすることで、体格差や学年差にとらわれず、誰もが同じ条件でニュースポーツを楽しむことができます。

メニュー（活動）

- ・キャッチボール（4人組ネットを挟んで・2人組）
- ・グループ戦（11点マッチ・ラリーポイント制）

◇御代田北小学校「ニュースポーツ講座」から学ぶニュースポーツの楽しみ方◇

「その一 チャレンジする心に火をつける課題設定！」「その二 集中して取り組める環境づくり！」

「その三 偶然性のある展開を楽しむ！用具の特性に触れる！」「その四 用具やルールを工夫する！」

上記4つの楽しみ方の工夫は、ニュースポーツの特性と言えます。加えて、各種目の導入場面の主運動につなげる練習メニューは、基本運動に的を絞り、テンポ良く進んでいました。これもニュースポーツを楽しむための大切なポイントです。

年齢差、体格差、障がいの有無など様々な違いを包み込み全ての人を対象に楽しめるのがニュースポーツの魅力ですね。

